

俳句

晩夏光

木々朗

蝉鳴けり産土神の地に響きけり

絵団扇のゆたかなる風頬に受く

夏点前織部の皿に萩茶碗

梅干すや終日匂ふ指の先

青すすき見えぬ海より夕汽笛

雑詠 文月

細田安治

梅雨寒が いきなり始まる 熱帯夜

水無月と 文月 跨またぎき 夏至またぎる

まるで風呂 くらえきれずに ポラ跳ねる

山津波やまつなみ どこえ逃げるの 土石流

夕立も 疑似熱帯か この雨量

ジイジイと 聞きたびアツイ 油蝉

